医学研究実習（ベーシック）

科目責任者　杉　本　博　之
学年・学期　２学年・３学期

Ⅰ．前　　文

本実習は，学生が基礎医学講座教員，先端医科学研究センター教員，病理診断学講座教員，もしくは基本医学教員の指導のもと，特徴ある医学研究実習を終日行うものである。

５月10日に「医学研究実習（ベーシック）オリエンテーション」を行い，各講座から出された特徴ある研究テーマを学生に紹介し，アンケートによる学生からの希望とをすり合わせることで，各学生がどの研究室に配属するかを決める。本実習は，実技を通して最先端の生命現象の一端を理解できるようになるために重要である。実技で得られる経験は財産であり，講義で学んだ内容の理解の一助になるとともに，その経験を基にして，さらに医学研究を広げていくことができる。将来，医学研究の重要性が理解できるようになるために必要な実習であり，医学研究に深い興味を持つ心を養成することを目的とする。

終了後には決められた時期までにレポートを提出する。本学の卒業認定・学位授与の方針として定める最終目標に到達するために，当該実習で学ぶ知識や技能の習得は必須である。

Ⅱ．担当教員

基礎医学講座全教員，先端医科学統合研究施設教員，病理診断学講座教員，理系基本医学教員

Ⅲ．一般学習目標

実習を通して人体に関与する生体物質や細胞や個体の理解を深める。将来の医学への探究心や学習意欲を涵養する。

Ⅳ．学修の到達目標

RE-01：リサーチマインド

医学・医療の発展のための医学研究の必要性を十分に理解し，批判的思考も身に付けながら，学術・研究活動に関与する。

RE-02：既知の知

医学・医療の進歩と改善に資するために研究を遂行する意欲と基礎的素養を有する。

学修目標：

①研究は，医学・医療の発展や患者の利益の増進を目的として行われるべきことを説明できる。(RE-04)

②生命科学の講義・実習で得た知識を基に，診療で経験した病態の解析ができる。

③患者や疾患の分析を基に，教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し，疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。

④抽出した医学・医療情報から新たな仮説を設定し，解決に向けて科学的研究（臨床研究，疫学研究，生命科学研究等）に参加することができる。

LL：生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために絶えず省察し，他の医師・医療者と共に研鑽しながら，生涯にわたって自律的に学び続ける。

LL-01：生涯学習

キャリアを意識し，生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。

学修目標：

①生涯学習の重要性を説明できる。

②生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。

③キャリア開発能力を獲得する。

④キャリアステージにより求められる能力に異なるニーズがあることを理解する。

⑤臨床実習で経験したことを省察し，自己の課題を明確にする。

Ⅴ．授業計画及び方法　＊（　）内はアクティブラーニングの番号と種類

（１：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ，知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
２：ディスカッション，ディベート　３：グループワーク　４：実習，フィールドワーク　５：プレゼンテーション
６：その他）

回数	月	日	曜日	時限	講　義　テ　ー　マ	担　当　者	アクティブラーニング
	5	10	金	4	医学研究実習（ベーシック）オリエンテーション	杉本，矢澤，川合，上杉，徳田	4
	5	10	金	5	医学研究実習（ベーシック）オリエンテーション		4
1～4	1	16	木	4～7	医学研究実習（ベーシック）	基礎医学，基本医学各センター担当教員	4
5～8	1	17	金	4～7	医学研究実習（ベーシック）		4
9～15	1	20	月	1～7	医学研究実習（ベーシック）		4
16～22	1	21	火	1～7	医学研究実習（ベーシック）		4
23～29	1	22	水	1～7	医学研究実習（ベーシック）		4
30～36	1	23	木	1～7	医学研究実習（ベーシック）		4
37～43	1	24	金	1～7	医学研究実習（ベーシック）		4
44～50	1	27	月	1～7	医学研究実習（ベーシック）		4
51～57	1	28	火	1～7	医学研究実習（ベーシック）		4
58～64	1	29	水	1～7	医学研究実習（ベーシック）		4
65～71	1	30	木	1～7	医学研究実習（ベーシック）		4
72～77	1	31	金	2～7	医学研究実習（ベーシック）		4

Ⅵ．評価基準（成績評価の方法・基準）

各研究テーマに沿ったレポートや，研究内容をパワーポイントでまとめたMP4による動画（8～10分程度）を提出してもらうが，日々の態度を含めたルーブリック評価表も作成し，基準が不公平にならないよう行う。

Ⅶ．教科書・参考図書・ＡＶ資料

担当する教員に任せる。配属講座決定後は，前もって担当教員と面談する等の準備が必要である。

Ⅷ．質問への対応方法

担当する教員に質問する。実習期間中は常時質問を受け付ける。

Ⅸ．卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

＊◎：最も重点を置くDP　　○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	◎
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	◎
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	◎
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

Ⅹ．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実験ノート作成について，実習中にフィードバックを行う。

Ⅺ．求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学修：翌日に行われる実験手技について予習しておく（30分）。

事後学修：得られたデータについて考察を行う（30分）。

Ⅻ．コアカリ記号・番号

コアカリ コアカリ PS-01-02，PS-01-04，RE-01，RE-02，RE-03に相当する。